

第一節 会話で思いを共有して

人生は、出会いの連続です。多くの人と出会う中で、家族は自分にとって最も大切で、最も深い縁のある存在です。ところが、家族の心が重ならず、名ばかりの家も少なくないのは、家庭とはどのような所であるかが分かっているからです。

家族が居ることを当たり前のように思っていれば、相手の気持ちを感じ取ろうとすることも、歩み寄ろうとするともないまま日々を送ってしまうでしょう。それでは和のある家庭を築くことはできず、自分自身も仕合せにはなれないのです。

どうすれば、家族一人一人の魂が安らぐ温かい家庭がつくれるのか、神はこのようなお教えくださいました。

神 示

人間の正体は魂 その魂が休まる場として 家庭がある

なれど 「真理」つかめず 時代の変化にのまれて 家庭を軽んずる者が多い
「運命」に重なる人生を手にするために

「真理」を我が家家庭に生かし 思い重なる家環境を大切にされよ

難しいことは何もない

ただ会話を楽しみ 互いに「思い」を交流すればよろしい

気持ちの共有が共感を呼び 自然と和心わごころ育つ家庭となつてゆく

信者に申す

今日今日 世を見詰めてごらん

「真理」を求めず 目先のこと事象に気持ちを乱され

家族の心気持ちに不安と迷いを引き込む者人間が多い

「生きる」希望が持てない人現代人の姿が ここにある

神はまず、「人間の正体は魂、その魂が休まる場として、家庭がある」と表されました。これは、議論の余地のない真理です。

人間の正体である魂が最も休まる所は、職場でも、学校でも、地域社会でも、趣味を楽しむ場でもなく、家族が集う家庭です。ですから、夫婦仲良く、親子仲良く、調和の取れた和のある家庭をつくることと、神は繰り返しご指導くださるのです。

家庭を一本の立ち木に例えると、夫は根、妻は幹、子供は枝、祖父母は土です。自然界の木を見ても、根が地中に深く張れば、幹が太り、枝がぐんぐん伸びていくように、和のある家庭を築くには、夫と妻が理解し合い、調和を取っていくことが必要です。